

「多布施川の水量と試験通水のポイント復習」

佐賀市水対策市民会議「学習会」

日時/2012 年 5 月 31 日

場所/ほほえみ館「きらきら学習室」

講師/川上 義幸（佐賀市水対策市民会議会長）

今日のお話しのポイントを復習させていただきます。

配布資料 10 ページの試験通水での実流量をご覧ください（図 1）。多布施川の蛸久の観測所の地点では、石井樋からの水と川上頭首工からの農業用水があわさった水が流れています。

試験通水での実流量					図1
調査日	設定流量 (m^3/s)	蛸久流量 (m^3/s)	緑小路流量 (m^3/s)	天祐寺流量 (m^3/s)	
H19 1/19	2.20	2.25	0.68	0.60	
H19 1/20	2.20	2.25	0.71	0.60	
H19 1/23	4.50	4.34	2.03	0.86	
H19 1/24	4.50	4.34	2.11	0.86	
H19 1/27	2.40	2.75	0.94	0.56	
H19 1/28	2.40	2.75	0.91	0.56	
H19 2/27	3.60	3.38	1.20	0.50	
H19 2/28	3.60	3.38	1.14	0.47	

いってみればこの水源のもともとの水量をいかに下流まで流せるかという話しになるんですけど、蛸久の観測所の水量を水源だと思ってください。

皆さん方の関心のある天祐寺川に分かれた後の多布施川の水量を示しているのが緑小路の観測所になります。

蛸久の観測所の水量も途中の井樋等で抜かれることで水量は減っていきます。蛸久で $3.6 \text{ m}^3/\text{S}$ 流れている時に、市街地は $1.0 \sim 1.2 \text{ m}^3/\text{S}$ ほど流量があればまあまあ満足できたというアンケート結果がありましたよね。これは分派後 $1.2 \text{ m}^3/\text{S}$ ほど流量があった時はいい。 $0.6 \sim 0.7 \text{ m}^3/\text{S}$ の時には満足できない水路も出てくるということでした。

それで嘉瀬川ダムが完成しました。嘉瀬川ダム完成後、4 月から実質運用が開始されていますから、4 月の流量を見るために、平成 22 年、23 年、24 年の 4 月の流量をグラフにしてみました。

平成 24 年を見てください（図 2）。さきほど申し上げました緑小路は紫の折れ線です。 $1.0 \sim 1.2 \text{ m}^3/\text{S}$ ほどの流量があればまあ満足できるというアンケート結果をご紹介しました。

今年 4 月の多布施川の水量を思い出してください。濃淡はあると思いますが、まあ流れていたという印象をお持ちではないですか。（会場から「流れていた。」の声）流れていたでしょう。平成 24 年 4 月の緑小路の流量を見て頂くと平均すると $1.3 \text{ m}^3/\text{S}$ ほど流れていますよね。ですからまあ流れ

ているという印象だったと思うんですね。いつもこの状態だと思われると困りますが、この4月は水量が多かった。

では、平成23年4月はどうだったか（図3）。この年の4月は水量がありませんでした。緑小路の水量は0.5 m³/Sより少ないですね。去年の4月はほとんど流れていませんでした。その原因を解明するのは今後の話しになりますが、今回は実態だけを認識して頂きたいと思います。

次に平成22年4月の水量を見てみましょう（図4）。この年の4月もあまり流れていません。

ですから、過去と比べると今年の4月は流れている。しかし、ここ数年の4月はあまり流れていなかった。こういう印象だろうと思います。

説明しやすいので平成22年2月の水量を取り上げました（図5）。この水量結果は毎月のデータがありますので、今後、機会があればご紹介したいと思います。

どういう風になっているかというと、蛸久の観測所の水量は、石井樋から入ってくる水量と川上頭首工からの農業用水を足したものです。多布施川の全体の水量だと思ってください。蛸久の地点での平均は2.0 m³/S前後。石井樋から1.2 m³/S、川上頭首工からの農業用水が1.0 m³/S、あわせて2.2 m³/Sぐらい平均的に入るんですね。グラフで見ると赤の折れ線になりますが、この月は2.2 m³/Sより少なく、平均1.7 m³/Sぐらいですね。

そして石井樋の分流地点は1.2 m³/S流されることになっていますが、全体の水量が少ないように、石井樋から入る水量も少ないわけです。

その時に天祐寺川に流れている水量と市街地に流れてくる水量を見ると、天祐寺川のほうは平均0.6 m³/S、多布施川のほうは0.5 m³/Sをずっと切っている。たぶんこの2月も多布施川に水が流れていないと皆さんが思われた時期だと思います。

今まではこういう状況が多かったかもしれません。嘉瀬川に水が潤沢に流れていなくて、農業用水として必要な量と石井樋からの必要流量、平成22年2月は若干少なめの年ですが、天祐寺川と多布施川への分派で少ないというのがわかると思います。

もう一つ、これに抜けている水量があります。足し算しても水量があいませんよね。それは佐賀市の上水。それと蛸久から「植木」、「後毛」、「お茶屋」という3つの井樋があり、そこから水が取られていますから、その分、水が減っています。

今後は、通常であれば石井樋から1.4 m³/S、それと農業用水が1.0 m³/Sのあわせて2.4 m³/S多布施川に流されます。しかし、佐賀市の上水もそうですし、上流の井樋からたくさん水を取られると、多布施川の市街地部分のほうまで水が回ってこなくなるんですね。この辺の実態をきちんと踏まえて調整する形を皆さんで考えていかないといけないと思います。

多布施川には2.4 m³/S流れるのが通常の状態です。ただ、嘉瀬川に水がたくさん流れている時は、石井樋から入る水量を増やすことは可能です。嘉瀬川に水がたくさん流れている時にどうするかというルールがまだきちんと決まっていますが、たくさんある時は多布施川にその分、水を流す。

それともう一つは川上頭首工の水も多い時は取っていいよとなっているようですから、その水が多布施川に入る可能性はあります。

その時は3.0～3.6 m³/Sぐらいになるかもしれません。その水をどう配分するかというのは次の話になると思いますが、これはそんな頻繁に起こることではありませんから、水が多い時はどういう風に使うかという話です。

3.6 m³/S流せるなら流して欲しいと思われかもしれませんが、基本は2.4 m³/S流れると理解されてください。

ですから2.4 m³/Sの水量の中で、上流から下流までいろんな使い方をされていますから、全体で調整しながら一番いい水の配り方を地域住民、行政、みんなで知恵を出し合って考えようというの

がこの会の趣旨です。

嘉瀬川の水が雨が降って多い時はたくさん取って、少ない時は少ないなりに取る。いままで歴史的慣行で佐賀土地改良区のほうから配って頂いているわけですね。そういうことも踏まえながら今後どうするかという話しになります。

他に水を増やす方法はないかという話しで、佐賀導水から水をもらうことはできないかという話しがありました。佐賀導水から流況調整河川として東側の筑後川から水を回すという仕組みはできています。その水を使える可能性はあります。ただ、佐賀導水から水をもらう位置付けをどうするかというのが今後の課題です。

いろいろと説明させて頂きましたが、実態を理解するためには、実際に水を管理・運営されている方に聞かないとわからないですよ。こういう時はこういう使い方をしていとか、その辺の情報も聞かないと、水量だけをみるとここで水を取り過ぎていてから足りないのではないかとか思いたくりますよね。そういったことも含めて河川管理者である行政の話しも聞かないといけませんし、川上頭首工を管理している佐賀土地改良区の話しも聞かないといけません。

そういうことを踏まえて最終的にどうするかという話しをしていかないといけません。

まあ、こういう図面とか説明会だけではわからないと思いますので、一度、ポイントとなる現地を見て、こういう水量のデータとかと見比べて、今日は水が結構流れているが、蛸久の観測所ではどれぐらいの水量なのかデータを確認してみる。ある時は蛸久では流れているのに、ここまであまり流れていないという時は、途中で水が抜かれている。あそこで抜かれているのもうちょっとなんとかして欲しいという感じになってくると思います。

これからそういうデータというのは行政のほうから開示されて、見たい人は見ることができるようになってくると思います。そういう風に、目の前の水量とデータを見比べて意見をいい、行政も皆さん方にきちんと対応して、一緒に佐賀市の水の一番いい使い方を考えていくようになっていくと思います。そのお手伝いを佐賀市水対策市民会議ができればと思っています。





